多自然川づくり取り組み事例

タ　イ　ト　ル	：石狩川上流における河道再生工事実施後の状況及びモニタリング調査結果について		
水系／河川名	：石狩川	河川分類	：大河川
河川の流域面積	：14330km2　　整備計画流量：5000m3/s(W=1/330)	セグメント	：1
事　　業	：河川改修	事業開始年度	平成26年度
目標設定	：定性的	段　　階	：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)	：礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な)	：掘削(高水敷)、掘削(低水路)、置土(土砂投入)		
配慮事項(主な)	：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

＜背景＞
かつての石狩川上流域の河川空間は、礫河原や砂州など多様な流れが存在し、旭川市街地でサケの遡上や多くの魚類が見られる河川だった。しかし、砂利採取による河床低下にあわせ、高水敷造成に伴う川幅が減少したことにより、河床低下が進行し、岩盤が露出している状況にある。

＜課題＞
河床低下進行に伴い、既設護岸や橋脚の安定性低下が懸念されるとともに、洪水時に護岸が損傷し、堤防決壊につながる可能性がある。また、岩盤が露出しているため、サケの産卵床及び魚類の生息に適した環境が減少している状況にある。

＜目標設定＞
河床の安定をはかり施設の適切な管理を行うとともに、礫河原の復元を図り、サケの産卵床環境及び魚類の生息環境を創出する。

取り組み内容・対策例

・河床低下対策として、低水路を拡幅し、拡幅した土砂を岩盤露出箇所へ流用する。
・低水路拡幅により、掃流力の低減を図り、流用した土砂の流出を防止する。
・流用する土砂の粒径はサケの産卵に適した材料である。

◆現状

◆対策工

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

・施工後、流用した土砂が維持されているか
モニタリングを行った結果、産卵床に適した河床に維持されていた。併せて、サケの産卵床調査、魚類調査及び底生動物調査を実施したところ、工事実施箇所でサケの産卵床や魚類及び底生動物の生息密度の増加が確認された。
・今後も、流用した土砂が維持されるかモニタリングを実施し、サケの産卵床の有無と魚類の生息密度等について確認していく。

産卵床確認
(H29年度)

備考

問い合わせ先	北海道開発局旭川河川事務所第一工務課
電話番号	0166-48-2131